

へ13
3192

へ13
3192

怪談楸筑序



世帯も落葉乃盡と云ハ誠なる
書の業乃と。詠初名酒機娘
早も香々吐下女此。饅乃け
怪談も字上女の世上乃君ふと。
八百系の書林達諸共。這ハ
新や。瑠り中。うきぬ風流で

昭和九年
十月二日
印末

一杯げく同石とや幸れ由公小男麻
乃ハッの由あさま公振まき笑給人
弘くそまらるん

惠方れ道乃端

及陸神の別當

静観房



明和起好の

い乃春

怪談概流卷一

静観房好河述

○総尺の仙人

夫玄圃小道遙して屢東海の塵外揚々と看
丹丘小嘯傲して幾度う桃花れ宴と借れ
見ゆる是れあに若君之皇乃教主隋唐と磨て
猶現し赤松炎帝の女師秦漢小逮て還て
なす東方常情之度瑶池れ桃と竊純陽
呂祖毎小岳陽の酒よ酔是も皆仙術をま
長牛しく樂あるは徒擗談ふれ死ての長去
くも生ての飛人よて一日を中て居るがごと

給くといえども。彼男打るも。いやと。我ハも。依例と
 願ふ。一向そのがら。い。ち。も。あ。つ。目。は。二。字。と。ん。か
 ともあつね。お。年。も。酒。と。い。つ。の。一。滴。も。音
 ない。と。う。く。也。欲。と。を。と。さ。る。半。火。と。さ。ら。し。め。あ。く
 利欲のみ。よ。い。さ。う。も。ん。と。考。せ。ば。け。し。并。別。乃
 修。行。も。あ。し。生。玉。相。撞。國。よ。て。文。治。建。久。の。三
 謙。余。の。右。首。幕。下。世。と。治。め。流。ひ。一。以。と。さ。ら。ふ。後。ま
 昨日。今日。の。や。う。あ。つ。と。い。ふ。推。ま。も。淨。為。理。と。ま。て
 ん。乃。ひ。一。の。和。田。の。義。盛。後。父。の。重。忠。と。始。め
 とも。あ。つ。と。い。ふ。の。半。と。同。く。も。い。は。男。キ。ハ。先。て

早。結。け。者。と。ま。大。お。う。家。の。半。ハ。知。し。ぬ。お。え。ん。て
 只。友。九。郎。長。と。稱。毛。け。之。節。の。時。の。も。妻。細。い
 物。終。せ。し。彼。女。あ。出。入。せ。し。後。役。も。あ。つ。と。い。ふ
 う。う。う。て。推。ま。ハ。お。の。づ。け。あ。つ。と。せ。と。あ。つ。う。よ。の。ま
 して。希。有。あ。る。り。の。あ。ま。こと。件。の。物。終。せ。し。ら。ば
 こ。じ。終。し。紀。半。ね。し。い。ば。り。て。若。我。の。後。討。乃
 半。と。あ。つ。と。い。は。梶。原。ハ。我。に。く。ら。し。し。教。で。ら。う
 らん。同。の。く。ら。ん。と。祥。也。い。し。よ。と。も。飛。を。し。と
 見。つ。つ。も。あ。つ。と。い。ふ。一。種。師。と。い。ふ。心。も。ま。こ
 して。け。あ。ひ。一。人。よ。お。ハ。酒。も。さ。う。い。種。あ。つ。

一が。子の食とする松の葉。固東乃ハ若くして。食と
する。小塚。雅一。又西海は。越くこと。云。捨つて。上。飛が
る。も。さ。ぐ。一。業。と。を。ア。と。ち。う。め。や。け。半
ま。ま。に。く。ま。世の事。少く。又。小。浮。く。る。ゆ。よ。つ。む
是。と。と。く。一。時。の。快。き。よ。百。年。乃。定。命。と。結。つ。て
け。方。く。浮。世。の。浮。と。び。て。お。る。お。ま。け。る。史。乃
陰。酒。子。弱。き。手。地。上。の。仏。こ。ら。う。て。又。百。葉。の。首
く。又。十。斗。れ。放。ら。う。て。善。し。く。所。作。望。固。成
小。社。す。や。ロ。ウ。一。う。ち。の。葉。の。妻。も。限。る。何。を
長。け。せん。と。く。空。行。居。せ。よ。う。ん。の。信。よ。樂。が

酒と。悟。る。あ。夜。明。せ。し。極。よ。し。く。病。を。ひ。て。老。ゆ
り。き。ハ。醫。師。ハ。勾。海。仙。神。を。頼。て。死。を。む。ち。あ。る。が
世。ら。の。習。家。う。よ。高。中。の。道。と。く。天。年。を。保。り
の。も。ら。仙。神。は。い。ん。も。し。け。ま。身。も。ま。病。也。命。
あ。ぞ。一。そ。ま。こ。の。社。と。思。入

○ 獅 猴 の 相 撲

是。列。の。ふ。き。よ。あ。そ。が。ま。の。葉。猿。お。し。も。ら。あ
ん。う。く。ね。ひ。戯。ま。し。つ。ん。お。て。う。あ。方。小。ま。わ。れ
角。力。を。と。う。て。松。の。葉。す。い。さ。り。人。乃。仕。業。い。道。の
し。も。あ。い。と。越。後。一。小。は。路。さ。し。ま。ま。い。ん。信。よ。樂。を

はあつる獵作あつる。あつるの獵人の中おけ
 男ハ生の獵を好む事。他は是より一日行時
 山中とてれまじ。記外とぬを猪の麻よる。て
 かそら。一こら。半。落ちぬ。あつる。あつる。あつる。
 とん付て。こら。奥ある。半。あつる。あつる。あつる。
 隠して。そら。こら。あつる。あつる。あつる。
 かそれて。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 弁高れ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 おれ。半。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 山仰も。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。

ようこひてや。真中に。あつる。あつる。あつる。
 即ち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 わま。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 うら。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 えら。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 六。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 提。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 提。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 い。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。



穉しき。百姓たらし。及ず。母をいふ。是を
知らば。さうして打捨てし。是も。又。是れ
併成して。己が住む。海。うらる。室に。是れ。中。に
云。云。云。して。強。氣。なる。もの。は。う。う。う。が。百姓た。と。ハ
の。あ。う。う。ん。が。云。業。れ。表。裏。あ。う。う。と。は。怖。ふ
半。に。さ。ひ。さ。さ。は。よ。向。て。武。ち。る。と。の。一。云。金。石
う。う。重。し。今。の。義。に。う。う。て。藝。故。も。を。抑。し
浪。人。ま。て。し。と。ゆ。れ。え。船。人。を。知。く。く。る。者。く
は。ま。さ。し。と。う。る。半。も。も。れ。て。い。ま。ま。一。見
退。治。せん。と。言。合。今。う。う。う。講。け。し。う。う。と。て。退。く

半やあふ。龍も。ゆれ。鬼も。ゆれ。二。命。と。捨。て
向。ん。子。屋。を。殺。さ。で。さ。ぶ。さ。う。不。背。あ。う。様
は。供。下。と。い。さ。め。れ。む。云。云。辞。ま。づ。し。詞。ま。づ
を。と。い。ふ。一。又。百姓。を。呼。集。め。志。め。合。ら。る。を
細。水。の。内。小。船。二。艘。出。ま。し。一。艘。ハ。流。ま。し。流。ま。し
門。は。あ。方。抗。を。打。て。つ。あ。い。ま。し。一。是。ハ。の。の
う。う。と。い。ふ。自。ら。う。う。う。う。は。い。び。あ。て。ゆ。め。と。殺。し
ゆ。め。信。え。あ。ま。ぬ。が。う。一。其。時。紫。入。る。船。あ。う。て
水。没。と。の。れ。ん。料。く。一。艘。ハ。熱。あ。て。枝。門。漕。行
を。一。雨。風。出。て。後。な。ん。と。言。来。る。一。と。約。束。し

許しとて行けり。すも恥しき事小なるに
ける。のる教行田今ふまゝに事や我に
又里とて行けり。すも恥しき事小なるに
弓削の道鏡と名あり。あるや云ふ社を
崔下唐が著る中に。常陸出づる原といふ所にも
道鏡の祠あり。記しぬ。中条野あり。寛
仁寺あり。かこの事しり。けり。但し
彼書に。高原の道鏡を文と云。谷と云ふ
皇極天皇の宮ありと云。はる人王四十六代
孝謙天皇。ゆゑに位より。皇極天皇と

中女帝あり。聖武天皇。推文。御母。光明后。皇
と云。暗記の失あり。皇極帝。茅渟乃
王の姫あり。人王三十一代。代々。御母。若留の姫
王あり。ゆゑに位より。皇極天皇と云
奉り。孝謙天皇。人王四十六代の帝あり。皇
重祿の御名。称徳天皇と云。御母。皇后
の字を顛倒せり。若くは。校正小徳と云。人
皇と云。すも。御母。若留の姫あり。御母。光明后。皇
帝と云。すも。御母。若留の姫あり。御母。光明后。皇
門前。若くは。掃除。他人屋と云。霜。御母。若留の姫あり。御母。光明后。皇

ける。乃若れ極て繁しむ。乃若れ院しむ。月日と
 送る。りるに。け。出年小送ぬ。草日蕨の根も掘り
 らしむ。今いともや食とす。げ物もふ。社がや
 明神此の宗。小送の。集世に。同の底。小。沈
 まば。志の。先。夜。文。右の。侍。に。行。て。後。す。る
 昔。く。う。け。新。ハ。細。を。ま。り。し。釣。と。ま。り。し。下。た。め。り。し。り
 莫れ。集。る。中。山。此。と。し。毎。夜。殺。し。く。取。り。し。て
 妻子と。有。其。の。女。と。他。人。小。童。を。價。多。く。取。ぬ
 右。人。れ。玄。葉。に。便。面。の。半。掘。り。し。む。い。ま。い。く。す
 便。面。の。下。掘。り。し。む。い。ま。い。く。す。い。ま。い。く。す。莫。れ。り。し。む

半そ。う。上。夜。は。涸。し。村。と。得。る。糸。ハ。必。二。夜。と
 け。ら。ぬ。が。う。し。し。り。者。毎。夜。は。合。し。り。社。ハ。中。大。に
 悦。ひ。か。や。う。笑。し。て。日。の。暮。る。を。釣。り。ま。い。集。り。て
 ん。る。に。大。さ。り。る。銷。儀。れ。岩。小。送。り。し。む。其。の
 長。い。と。人。家。も。い。ろ。ん。と。見。る。也。と。悲。し。き。あ。て。是。に
 な。る。い。ろ。し。て。は。社。と。動。も。あ。り。人。の。驚。く。懸。か
 せ。い。か。や。う。し。の。う。て。お。の。が。位。あ。り。海。く。妻。子。と
 とも。に。釣。り。又。六。人。の。糧。と。し。て。も。れ。余。り。け。の
 夜。も。又。送。り。ん。ふ。に。明。神。此。の。宗。岩。に。有。附。居。る
 是。と。亦。一。年。切。ら。く。ゆ。り。ぬ。く。す。半。四。日。に。及。ぶ



まるもさうし。其の夜もめく。次の夜は。角文
 るる。牧羊此種。家に皆。静まらまう。伴
 獨者の。寂せん。乃。枕り。や。と。何や。ん。ぬる。音
 ん。い。て。起。ら。う。て。え。ま。ま。又。の。猫。の。の。る。に
 来。う。ん。け。だ。に。衣。布。と。引。出。し。首。の。引。も。依
 志。ら。ん。縁。都。と。引。出。し。と。遊。遊。く。の。捕。り
 皆。く。起。り。あ。ら。ふ。よ。ば。わ。れ。た。も。お。先。の。や。く。を。見。ま
 あ。ん。ち。く。猫。を。お。殺。し。ぬ。中。に。い。ま。き。た。る。も。の
 あ。う。て。け。猪。は。浪。人。の。飼。畜。する。な。れ。た。町。人。と。遠。い
 福。で。社。で。ハ。半。む。ら。う。い。は。文。ある。望。せ。て。や

い。も。例。あ。ら。い。時。中。な。れ。ば。誰。か。と。や。ら。る。ま
 不。詮。沙。法。ち。う。に。埋。も。隠。し。と。よ。ま。し。て。下。男。に
 云。付。深。く。埋。も。り。る。が。密。中。ハ。必。漏。り。習。誰。か。え
 や。ち。う。浪。人。の。猪。を。習。を。の。衣。布。と。望。て。殺。し。れ。と
 け。沙。法。を。う。と。や。く。の。海。う。ぬ。浪。人。と。婦。人。け。ゆ。と。す。て。太。子
 新。玉。相。は。後。條。の。殿。を。と。識。し。入。る。あ。ら。か。き。あ。に
 一。命。と。捨。り。ら。る。衣。の。死。と。を。り。る。あ。ら。か。き。想。新。玉
 洞。の。神。も。く。ら。ぬ。一。ち。り。て。浪。人。を。殺。す。ま。あ。う
 亭。の。主。子。對。面。せん。と。云。入。ら。る。に。お。出。り。て。猪。の
 半。を。望。て。食。し。て。も。福。で。う。ら。る。と。して。あ。う

ざらんやと。志をなげきまじは。引自んたるを。これ
 非義の事もちろし。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。
 ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 出れと。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 中ん。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 も。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 浪人も。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 け。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。

卷一終

怪談概論卷二

○相伝の山畧

静観房好阿述

相傳國大山の辺。小住獵人ある。時小名打小出る。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 山姆く。己け入。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 見らる。夜。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 聖日。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 小登。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 集。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。
 取。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。ちし。

どののて。焼^ひき^いのて。集め。木の葉とあはひて。吹^ふか^れれ^い
 又^{また}お^もり^んく^さも^し出^でる^り。け^し火^とち^うく^ふ流^るた^こ。木の葉^の葉^の
 枯^く木^の枝^のの^ここ^こに^ある^を。ふ^まま^をて^おく^こ。
 多^まふ^こ人^の斗^のの^く種^のち^る木^の葉^のの^く種^のた^るを
 中^ち種^のと^ひぶ^あて^おく^ふ。い^くん^けた^ら。
 お^て。火^のの^ちる^方。件^の物^は。木^の葉^をと^あい^まい^あつ^と
 子^の種^とあ^まし。木^の火^の強^くら^りある^とん^の毎
 ぬ^く人^の種^おそ^ら。^たく^とある^おい^ま。木^のお^て
 た^くよ^とそ^らう^らん^の種^のた^るふ^かく^木と^焼か^すの
 に^くい^まは^ぶあ^まし^くら^りもの^があ^まし^くら^りん^の斗^の

の^こち^がそ^ら。^たく^とある^おい^ま。木^のお^て
 た^くよ^とそ^らう^らん^の種^のた^るふ^かく^木と^焼か^すの
 に^くい^まは^ぶあ^まし^くら^りもの^があ^まし^くら^りん^の斗^の
 の^こち^がそ^ら。^たく^とある^おい^ま。木^のお^て
 た^くよ^とそ^らう^らん^の種^のた^るふ^かく^木と^焼か^すの
 に^くい^まは^ぶあ^まし^くら^りもの^があ^まし^くら^りん^の斗^の
 の^こち^がそ^ら。^たく^とある^おい^ま。木^のお^て
 た^くよ^とそ^らう^らん^の種^のた^るふ^かく^木と^焼か^すの
 に^くい^まは^ぶあ^まし^くら^りもの^があ^まし^くら^りん^の斗^の
 の^こち^がそ^ら。^たく^とある^おい^ま。木^のお^て
 た^くよ^とそ^らう^らん^の種^のた^るふ^かく^木と^焼か^すの
 に^くい^まは^ぶあ^まし^くら^りもの^があ^まし^くら^りん^の斗^の

ありしが面をきつてふらりたれば大に驚き迎をうて
ぬてひいたるうすある事ぬりし。その後地不も
たがそと見る時大におきて迎をうてりるをたぬ
是の本草保目五十一種々の集解あるを。山姑山畧
山麴の類なる。山姑山畧の事もある。

○世山の保俣

保俣とくつとよむ時。柱の女の一名小く。古漢名の
橋れやそり。ほれは更徳海をよむ。もまを小者。類と
云。まこころ。でくまといふ。人形の事。小て。唐小といふ。
王陽明の保俣の詩ありて。世人乃名利貪見するに

戒するなぞ。其餘教く何や。園東の保俣を業と
よむ者。山猪と云。爰に丹波乃世山の行々。
い乃いよや。何らん。法をよむ保俣師あり。が。
年老の古竹。さうりた。を業とて。よまのまぬ
農業に心を苦しめ。そと海へたれも老ぬれハ
いさうりむく。働はざり。種ふ。はままづ。く。
初々の種も。く。ある保俣。新推。ちく。まらねハ。
古の保俣と出。今用ある。お刺て。たふ
たふ。今も。め。を。と。清。く。一。園が裏に投入。只
さし。出。て。あ。り。形。が。ゆ。と。ま。で。く。め。一。や

○老女の悪報

凡百千劫と経るといふも。それの業をらびず。因果交報の
 形に備わがごとく。分毫もたりませぬ。姑現生に悪債
 償して現世むひひ一たりとあるも。後の人は志ぬす。
 むう。奥の痛生後の神に。日吉の湯に。あたるむ女
 ありたり。そ性暴悪しく。ごう下知小背へる老女の
 さうまう。主君の寵とゆるる者ど。あつて。癒てらふ
 さん。又ひひくく毒殺し。人とそまある。一幸を救
 うぞか。志くねも。時の位威ふかされて。流らるる
 そのもなう。いふ。け老女のや。病と流る。まらう。

あまの指痛しく。指に悪ひぐ。悪に指付。千障子あて
 すり破る。うらと指あて。むとま。ある指。指と
 破る。血流で淋く。う。ちて。は。と。療治を。い。ぬ。
 い。う。も。あ。る。一。ね。一。せん。さ。あ。く。奥。う。と。出。
 の。長。屋。へ。入。る。人。を。け。も。あ。り。る。ん。あ。ふ。て。も。れ。指。指。
 指。あ。て。ま。指。小。あ。て。指。破。り。あ。ん。と。する。幸。屋。ま。た。
 せん。さ。あ。く。板。の。あ。つ。く。る。と。指。小。指。う。て。あ。る。ん。は。
 け。れ。も。毎。日。指。と。ら。て。指。を。指。小。指。の。指。小。指。う。て。あ。る。
 う。て。あ。る。ぬ。指。小。指。と。あ。り。る。指。小。指。う。て。あ。る。
 う。の。く。る。一。と。あ。る。指。小。指。と。あ。る。指。小。指。う。て。あ。る。

まきの耳を寝ひらるが。年経く終ふらむ死す。
念のこぼりて。そゆるる長屋を。目若も屋と安ん
る。夜は共あるうと毎そのあう。——とそ
天心の昔言——老人の泣うゆり——

○薜花乃妖怪

古歌ふあるあひうねハ。今うし知らぬあつらひげ
の花さう。今うし和のあひうや。薜花あり。古今に
けいごうとさう。あきごも源和名抄ふ。薜花子
とそあひうねと訓いぬまひ。しきもも知らぬ
いり。——。堀河百首ふ。知らぬ。さうさうはあを

いふしてが。あひ人の園に咲らんとり。夜に何乃
あ守れはゆよ。あひうねとあひして。殊毎ふ花の
寤食とわすま。夜は文行とる。薜花とそと
いせ。知はいまあもさるに起出て。花のひくを
ひらうとらひ。まふとて志のうとらんて反
愁ひ。長はは時とて。日の盛うふは。小窓の
あひ出さまハ。人皆去就とそあまき。男河うり利
あひうま。下葉の枯くるとたすてんと。夜は出るに
約教と押分あるおあり。薜花とそこなるん事知
いり。——。あひい。是と追拂りんとそあまきハ。



卷之二

首のさむびくろ墓のびくろ運するあるやんや。刀の毛
よだらしてぶびぬきさうりして極のよきりそい。ぬきぬ
透よりさうりのをけだげむくろを運さく。隣ある乃
垣と越てなまれば上運入る。さあはもほの宅うら。若
ちくせなるさふも。ほし洗撥もあら半といひて。後新
かなるれもさうり難一と。思葉して悲しあるが。其後を
隣あるのうら。わつとて。運さく死一りる。さあはもほと極
らまけさ居るうあるげを人主君の似地ふりて。百姓乃
罪あるさ。河やまう教言一もる事ある。さあは死ふる
まて恨のさうりて。運さくらげあ。さあはもほとせんこ

いひ一う。さあは死運のうらまをさあはもほと極。あらふても
あらうらま。おらぬの中と分て。運おらうらま。さあはもほと極
あらひあるらとあひせぬ。根と堀らうら捨りまを。
傍友れ士不裏ふさひい。さあはもほと極。さあはもほと極
さあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極
とさあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極
あらうらま。さあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極。さあはもほと極
○古裡を服靴
相見録念光羽寺。然阿良忠と人の元基。南東大檀林の
随一淨心弘道の墓地さう。今むらう。い寺の字察ふ

神かみのつらさういふにきりるどはるニ目ともんす肝きんと
 清けしくをいふ出でが流ながれあうことぬふらむを
 ちりし發はのまふ出でとあさぐらふもあつて小
 とてあし。馬うまのまふ出で。ぬくよれは小袖こそでと
 そつこ小換こかへ投なして。まきうし。づがそつこに
 條じょうわす。皆みなつ。枕まくら小打こうち外がて。口くち首くび程ほどがあること
 馬うまいふともち。ずけ小袖こそでとてえんと。衣い柄がらのあて
 ちつて打うちえつるふ。我われもよう先にこゝろに。水みづのあて
 ひやうちる白しろいふ。神かみとる出でして。我われもよう
 りる後のち心こゝろあつとさもびて投なけ。の速はやきうし。

町人まちびとをよひくおんい返かへ無な小こまよげ。小袖こそで行ゆ時ときもや
 物ものちる。と。よもあまを。て。ぞ男おとこ小袖こそであへぬ
 そもく。小袖こそである。武士ぶしのあて。密ひそ通と。る。女め乃
 成せい故こせ。れ。る。それ。が。え。る。小袖こそで。も。妻つまの。執とん。
 日ひら。毛け。小袖こそで。と。ま。う。る。行ゆ。り。り。
 あも。心こゝろ。人ひと。古ふる。小袖こそで。未いま。ま。と。物もの。ち。り。
 う。る。け。や。あ。妖まじ怪かい。と。希まれ。な。れ。刑けい。罰ばつ。換か。死し。の。身み。未いま。初はつ。
 ま。て。忍しの。ぶ。る。も。う。ず。く。け。り。あ。ぐ。ハ。一ひと。つ。お
 小こ。あ。り。く。え。い。ま。ら。ん。と。彼か。處ところ。に。未いま。の。者もの。と。た。ら。ん。
 洞ちやう。て。忍しの。ぶ。る。も。う。ず。く。と。昔むかし。又また。昔むかし。年とし。中ちゆう。乃すなは。物もの。終は。る。と。



永代常夜燈

永代常夜燈

絶くくふなりりし。私ハ初サるゝ文はふ出ゆく。
 止す小舟るる中ふあく。命もさうさひすらんも。
 ふらふら父のやう。大勢此命とさうさひ。未だ
 死のくるし。私なるし。死すらんし。あ
 一入つらめし。年りし。死すらんし。死すらんし。
 ちど死望く。成仏し。し。私ハ。死すらんし。死すらんし。
 あつらふし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 とる人ふらふら。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 もと今く回向し。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 の功徳ハ。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。

仏果とゆる事其後めあり。今け息女の若んあく
 父の罪障と懺悔し。各れ回向ふあひのまを。解脱
 うこのひちりし。此まを名かひくも。あつらふし。死すらんし。
 給ふべし。八苦の中れ。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 あつらふし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 浪卒し。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 こよめあつらふし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 海もあつらふし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 能乃ちの罪人とさる。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。
 父伝ふが筆と筆し。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。死すらんし。

卷之二

〇十九

女どろし連交店の方行半。二町ちうし。ふ。の女
 社人のよとらる。をもあうなる半。後石のぶ。く
 ちまき。あま。く。ひく。能く教とんふ。にハ
 耳の能ま。く。さあて。目ハ。つ。つ。の早れ。あ。く。ご。ご。
 社人。が。肩。と。首。勤。く。も。ど。う。も。さ。ら。ん。と。き。し。う。ば。
 大不怖。き。く。吉。後。津。文。の。種。か。と。れ。も。一。箱。小。行。り
 なる。あ。ふ。花。ん。ん。と。む。ま。つ。く。人。の。事。ある。も。し。て。は。ふ
 噴。き。と。う。い。ひ。ご。て。き。く。後。ま。て。く。あ。き。バ。最。女。ハ。の。死
 消。く。て。泣。き。く。雲。ふ。ま。う。だ。う。う。の。花。の。林。ふ。が。う
 せん。と。う。く。立。居。る。と。花。見。の。事。は。う。も。あ。ま。人。の

色の。ら。一。さ。よ。只。今。何。事。と。あ。や。し。半。あ。あ。い
 給。つ。と。同。い。き。く。あ。う。の。半。一。と。う。う。は。ま。い
 消。れ。を。や。の。の。皆。古。と。あ。い。且。亦。古。夜。の。天。の。神。使。が
 寄。て。あ。あ。の。事。と。ま。あ。い。も。い。は。ひ。な。が。う。く
 湯。作。り。か。の。く。と。う。も。あ。ら。る。よ。

○市系の大蛇

と。徳。國。市。系。の。ゆ。い。大。なる。草。野。う。う。二。三。里。も。続。く。る
 と。あ。う。く。ふ。ふ。あ。ま。た。里。人。と。も。草。と。焼。て。相。立。年
 よ。ろ。し。と。草。の。中。ま。ま。い。ま。ま。の。あ。い。も。あ。の
 と。く。野。と。焼。る。と。村。中。と。合。く。あ。居。と。ま。あ。を

怪談 椒笈卷三

○仁足乃貪夫

靜親房好阿述

人の親れ心は園小あつ福とも。みとらみ道り
 味はもつ餅のなるそあつ。鳥獸もそのをいじが
 命とらうるぬもらる代神一息の慈孝もあつ
 了し。あつし。此親ありし。奇伎あり。さし
 正徳辛卯のあ。朝鮮人素轉の折つ。仁足乃
 行田令の百姓。千子れ六七茶あ。と連く。在るれ
 との二回小辻をの彈路小あ。見抱せ。ゆさ
 彼一子をいづちま。うる。あひぬ。あつての人れ

卷之三

卷之三

三

代元乃列まろふくくしつしきなるの半も身み分ぶ
 小不足の半ハ出たわくらひた只ただ胡言こごんらう
 かるハ生國とつと半と父の名はハ生國
 中つるのともるつと行の船ふねつまの村も六つ
 の船と歌うたく西も東もつとまなつと
 唯ただ今いまふ小はまびる半も成るもあわま
 けしに父ふあをせと流るくと祈いのちぬ社やしろを
 あと流るくとあるも目と目と人合あひあひ茶
 するも夫の歌とけしと打まると初はつめと
 見ると一がそれとハあはるとさしとさるを

けふとくといふくハ約やくくぬくとつとるもそふと茶
 いまも急ま火かまで茶ちやが村もあつと夫も八九年茶
 正徳年中しょうとくねん新解しんげん人見相ひとみあひふ物ものく父とえくとま
 ち後ちのちの流ながもなつと一にさしうあめ我われと
 今いまの對面たいめんにふ日ひの仙せん神かみふ祈いのち一孝かう心こころも
 感かん念ねんといふ物ものあつと見みとつと生なまに感かん涙なみだと流なが
 あるけふのころと陸りく子こつとつとあはくさふ
 病やま初はつらうりの山物やまものあまも垂た一いつ取とるぬがま
 とも妻つまあ持もともげとあつとつと我われもくはの者
 元年元年まも私わたしも入いの山やまを去さらと出で役やく人ひと中なかはら

ありけり今交わす二月に於て朝鮮人の地をの致
 そ尾能勅諭の語をけり知ら者父と見えし
 とて此の位居るも在斯ハいつらと伺ふ
 只父の名のそそつて其前も智しねむけけ
 見捨るも使あつたむのまとして皆く之合
 分任してりし思もそそ育して居仕なり
 重く故人をより此仰長くおめり骨子して
 命保のくげ年月一子のとくね新生之只今まで
 肆店の方徳徳吾達宮術小相勅諭のけり
 赤糸親親中とお後いり私記我子お徳不徳

拙い隠居いたせばもり小お徳の彼あり父は
 止不さとおおきくうさるぬ大慶をう酒中必
 とくせし父少も對面してせは遠くハハ
 呼遠らとも又ハは良きて田地を求め居る
 心するせに致さるんそそとの心親心と
 せん小け候中物候ありけり金子を奉ら上と
 今捨たあはれ出りけり至年を小お徳一々
 皆く主の志と感と金子を信た眼乞して
 悔し又とそそとあらま方人候者有一等と具
 候し件の金子とれ出りて年寄所費を介



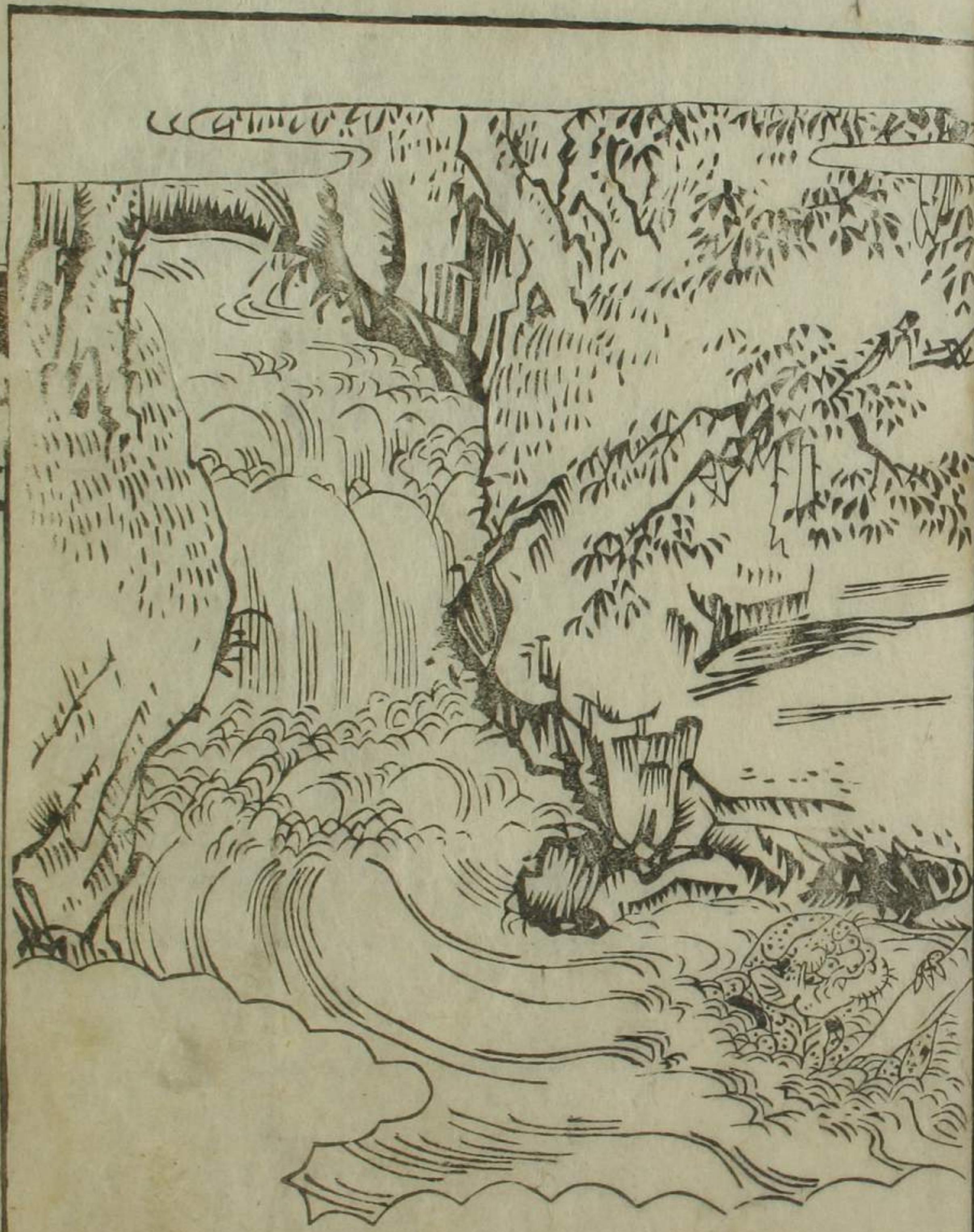
左を白き小蛇。又密小蛇。後。不
 立也。ひて。難。又六。清。小。入。殺害
 して。今。子。を。棄。る。わ。く。え。才。木。公。集。此。年
 ま。二。子。と。ん。一。あ。ひ。一。は。あ。ま。ち。小。あ。く。ず
 わ。ざ。と。捨。る。な。う。こ。を。以。り。右。の。老。い。さ。ま。
 一。年。わ。く。其。不。意。の。ら。と。ふ。く。んで。天。乃。尉。
 給。つ。る。な。う。く。一。親。の。子。と。思。ふ。人。る。は。え。も。く。
 る。う。焼。野。籠。子。夜。れ。文。鏡。う。の。む。く。れ。蕪。ま。て
 か。ら。う。ぬ。ハ。父。子。れ。思。ふ。な。う。く。ず。や。汁。公。ら。と
 三。ハ。奇。夜。の。中。乃。奇。事。法。あ。う。く。ら。り。判

○右坂の妖怪

芒鞋竹杖布行纏。遮莫千山更方山。幾重几峯
 と。六。も。も。こ。も。若。も。も。い。ぬ。是。れ。軽。い。飄。然。と。る
 雲。あ。れ。一。孤。僧。古。塚。の。下。乃。右。を。若。む。して。松。さ。く
 へ。若。る。河。へ。急。う。び。り。う。あ。る。人。れ。墓。お。や。と
 見。る。う。ら。に。二。ツ。の。塚。う。り。火。乃。り。出。る。古。戦。場
 あ。ん。ご。小。い。ま。う。何。る。事。ま。て。塚。う。く。く。い。た
 い。ま。の。日。ま。て。程。も。あ。く。狭。う。屋。小。郎。ど。り。火。さ。る
 一。乃。の。兼。入。る。燐。火。う。ね。人。の。血。去。中。小。入。く。年。と
 終。る。は。夜。小。く。竹。う。や。く。え。是。う。あ。う。く。白。又。と

直小妻が宅にひてげうとけきば。一處あるて
 恨ひの形跡はけふなる重ある男の年。然れど吉日
 良辰と撰あつ小むらぶ。お生うまの日時とある。地味と
 ともひず。陰陽曆日の候と懸れ理もあるを
 けきとも。けり。考へん。天地はる小何の
 悪日とさ半。けり。懸へ天教大唯鬼客ホの
 吉日とささも。叛逆不義れ企あ。んよ。天罰
 いうそのつよなる。亦四ヶれ悪日ありとも
 陰徳のつよ陽報ある。不転成日不死ある
 人と。冥途へ候と。いふ。返り。と云例もある

早あ音き見み。初はらはらはの半にあ。びと。けり。いけとハ
 一日もさや。増く積こ懸いえり。さ。と。せう。た。い。ま。バ
 勇物笑て。むのい半あ。さ。さ。後。け。さ。八。宣のたま
 殺ころた。方かた小こあ。又。色いろと。日ひ時ときと撰あつも。さ。う。懸い
 世間一殺多うの半にハ。日ひ乃のけり。とも云が
 あ。い。神かみ小こ唐たう大だい和わと。い。陰いん陽やう道だう乃のや。け。と。建た
 立たて。用もちひ。さ。せ。け。の。所ところ政せい乃のさ。い。固こ
 用もちひ。さ。と。彼かも。又。一ひと編へんを。編へんある。一
 唯ただ多たう。乃の半はんハ。人ひと小こ何なにせ。と。一ひと。懸い双そう方かた直ち
 ね。と。さ。と。あ。い。な。ま。そ。それもある



卷之三

三

一箇より眠るに。やうなるも。教と格(きやく)の
 一のり。めえんであうとんまじ。一抱もは
 新(あらた)なる事毎(ま)夜(よ)なれど。あやしく。何(なに)も
 せ。妖怪(やうかい)乃(すなは)ち本(ほん)ある。さうして。新(あらた)なる事有
 と。他人(たにん)は。ははせんも。あつて。あまじ。むそ。うま
 ち。あつて。えんじ。志(こころ)惟(ただ)して。ある。所(ところ)外(ほか)入(い)り。ぬ。新(あらた)なる
 りて。あつて。出入(でい)の。口(くち)と。ぬ。ま。ま。戸(と)も。開(ひら)き。ま。新(あらた)なる
 霄(せう)も。う。の。居(ゐ)ら。る。ふ。夜(よ)も。あ。も。人(ひと)志(こころ)づ。ま。う。は。や。えん
 ち。り。り。い。ぬ。ま。ま。の。地(ぢ)入(い)り。る。あ。と。の。戸(と)を。ぬ。ぬ。ぬ。
 さ。い。い。ぬ。格(きやく)挑(てう)て。い。い。に。格(きやく)符(ふ)の。い。の。な。ま。あ。は。し。と

の。あ。あ。り。り。と。追(お)つ。て。切(き)つ。も。り。ら。に。飛(と)鳥(ちよう)の
 ち。い。飛(と)ね。ひ。ひ。ま。も。も。通(と)ぬ。ぬ。ぬ。ま。あ。う。け。あ。ま
 け。一(ひと)抱(ぶ)と。伐(う)ち。えん。結(むす)く。ん。ま。に。船(ふね)と。い。つ。る。款(くわん)た。り。り
 夜(よ)の。い。宿(しゆく)宿(しゆく)の。あ。う。い。か。が。ら。も。の。付(つ)ぬ。い。う。と
 何(なに)も。い。い。と。う。つ。て。感(かん)入(にゅう)教(きよう)年(ねん)は。度(た)を。信(しん)づ。く。事(こと)
 入(い)陽(やう)し。ぬ。あ。人(ひと)い。い。一(ひと)夜(よ)二(に)夜(よ)行(ゆ)く。い。い。事(こと)に。あ。う。と。さ。て
 事(こと)後(ご)事(こと)す。今(いま)の。右(みぎ)の。あ。い。定(さだ)めて。い。い。の。志(こころ)づ。は。ま
 何(なに)も。い。い。新(あらた)なる。事(こと)も。あ。ま。妖怪(やうかい)乃(すなは)ち。人(ひと)の
 新(あらた)なる。事(こと)も。あ。ま。い。い。我(われ)の。教(きよう)旨(し)の。基(もと)に。ま。い。い。格(きやく)も。事(こと)
 大(おほ)い。新(あらた)なる。事(こと)は。後(ご)何(なに)の。恙(あやま)り。も。あ。り。り。と。格(きやく)も。事(こと)

○猫衆乃教場

也。またの教はたつ八つ。右九つと傳る。温泉ある處乃
 守にはつゝ。名のある武士のあつた妖怪など。さう
 さういふと何条さる事なつて。いふと。い
 付く。うらひんまを。外は是を。さういふ怪も
 あつて。唯時々猫多く集つて。おぼつた。の。あつた
 是とや。妖怪の扱は。云。福。と。いふ。と。おぼつた。さる
 事。あつた。耐。い。る。に。村。の中。あつて。獲。え。入。り。ま。す
 け。ら。ふ。大。概。か。れ。敵。り。ま。す。寺。号。と。い。ふ。あ。つ。て。い。ふ。さ。う
 なる。鬼。の。向。の。寺。に。集。ま。る。猫。多。く。い。ふ。さ。う。の。

灰毛猫と。さういふ。先。は。中。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。件。子
 の。す。い。ま。う。の。さ。う。い。ふ。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。乃
 根。元。と。い。ふ。の。背。れ。ま。げ。ち。る。古。猫。と。い。ふ。小
 舟。と。い。ふ。列。な。れ。猫。も。育。と。う。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。教。す。る
 件。な。つ。て。い。ふ。さ。う。の。獲。え。入。り。と。い。ふ。さ。う。の。内。室
 初。と。い。ふ。さ。う。の。社。を。い。ふ。さ。う。の。他。人。の。お。母。は。せ。い。も。偽
 小。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。主。人。は。い。ち。じ。や。い。ふ。さ。う。の。社。を。い
 ふ。さ。う。の。中。に。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。若。當。心。は。人。味。な。つ。て。い
 ち。じ。や。い。ふ。さ。う。の。後。件。の。古。猫。が。い。ふ。さ。う。の。今。の。動。向
 して。是。城。す。る。間。あ。つ。て。い。ふ。さ。う。の。お。母。は。い。ふ。さ。う。の。

夜文よきゆ。彼は後一方八條。一方は富戸あり二方
 際ふと建てる幕を密にうらひんに繩をやが
 告一またがらば。我々の御猫を示居く。右に
 猫は又十匹なり。び居る。まゝあつて。我御猫
 のはく。と中へ運出脊とて。八光に是と一折小
 考て。飛らうらる。天井の板小指の脊を。とら
 まむ。あつて。り。ま。ま。の。な。小。居。り。は。れ。を
 彼とれ。金。花。指。と。何。れ。め。百。姓。お。け。灰。毛。指。白。黒。斑。也
 小。ん。へ。る。は。茶。金。糸。の。盤。部。が。猫。と。れ。と。と。首。と
 しく。お。も。く。と。す。と。お。お。あ。ぐ。て。る。に。今。か

よて天井へうらび。落るもらう。あるひ。八。八。入。と。う。て
 申。達。と。て。落。る。も。あ。つ。た。な。の。指。と。外。脊。乃
 天井へ。忍。公。正。も。ら。う。き。う。是。し。我。の。お。指。と。御。花
 こ。し。く。衣。指。と。業。と。お。ま。さ。ん。へ。り。時。分。と
 侍。也。人。中。ら。る。八。人。と。は。指。と。人。指。長。刀。大。小。懸。り。は。親
 の。指。と。握。ち。ひ。て。う。け。入。ち。う。に。お。て。ち。う。に。ま。れ。は
 室。の。柱。う。し。の。戸。障。子。う。も。の。の。う。道。と。す。我
 追。備。く。お。ぬ。り。ふ。け。お。け。大。指。は。飛。を。の。め。く。を。お。う
 る。ん。ら。く。わ。ら。の。遠。る。ら。う。迎。矢。り。る。け。後。は。我。御。新。お
 夜。の。く。件。は。若。指。も。終。ふ。ま。り。り。と。古。人。の。昔。話。と。く

狐きつねはううぐぐるる性しやうありありてて率そつ尔に人びんああるるををいいははままささししくく其その擔たんけけ者ものああるるををととりりてて傳つたへへまますす
猫ねこととくく愛あい化げしてして。狐きつねとと無なしし人ひとををたたりりてて守まもりりはは
ああるるややああららのの猫ねこはは業わざ小こももととのの猫ねこととううてて弓ゆみ弦じゆん
二ふた物ものととああるる。けけししちちのの首くび筋すぢとと結むすぶぶ。ちちののまま主しゆ人ひとはは
ああるる。外ぐわいれれ然ぜん歎たんとともも防おほぐぐるるにに死し所しよととしてして。狐きつね小こ
回まわりりてて我われととああららじじくく糸いと畜ちゆう類るいああるる。物もの雅みやび一ひと
苦く痛いたととんんせせんんとともも。今日けふはは終しゆう定ぢやうててのの日ひ切きてて捨するる
ああるるとと其その日ひハハ好この事こととと並ならむむにに。このこの回まわりり冷ひやややううんん
のの方かたととままささしし。そそのの後のちハハ何なにのの妖まじももああるる。ううりりににはは治ち人ひと

流ながししてて云いふふ。一ひと葉は小こ達たつ一ひと葉はままハハととてて。傍かたわら一ひと
ああららじじくく。必かならずすす仲なつののままああららじじ。ふふ事ことああるる。ああららじじもも
武ぶ士しののああららじじととうう。ううれれ道みちハハ奥おく首くびとともも免まれれをを
早はやいいののんん程ほどハハ思おもううもも。ななわわつつ射いぬぬととんんやや。ああららじじ
とといいははららじじ。いいがが。ハハ小こ歌うたハハ与よせせてて者ものああららじじ。ううりり弦じゆんをを
新あらたたたねねたた。とといいのの外ぐわいににはは飛とびびてて。おおももいいととううんんとと
やや一ひと葉はとと和わぬぬ。梅うめ刀やいばハハ小こももををささりり。ハハ約やくのの
ああららじじ。ままささしし。人ひとハハ何なにもも面めん目めななしし。とといいははれれてて我われ
ららにに及およぶぶ訓しんああららじじありあり

○總すべ奥おく吞く蛇へび

水血にありしあや。里人乃中約し。ハ年毎に
草葎童のげゆり。そ二人二人つて。矢さる。早あそ
ありし。思ハ。汝臭れわ。あさ。と云し。誠
おつふゆりて。後。と云し。

○千葉乃猛夫

下総。千葉。と。常胤。居住の。祖。と
其子孫。相續して。近世。永孫の。氏ハ。小武。名。大小
あり。家。臣。式部。同國。白井。城。小。う。さ。城
治。約。小。金。に。つ。て。ご。も。に。威。武。關。東。小。う。や。記
り。る。そ。ち。ら。あ。こ。あ。今。も。け。色。の。百。姓。小。心。別。る。る

その。お。ね。る。甲。小。小。十。郎。と。つ。る。若。う。春。し。ふ
細。ら。に。夜。斗。行。く。未。叶。小。ゆ。る。程。の。不。敵。る
男。あ。う。し。ある。時。例。の。と。未。小。入。く。心。知。く
ゆ。情。出。て。細。ら。居。る。に。小。十。郎。と
呼。ぶ。の。う。小。十。郎。見。向。を。せ。ば。月。の。を。と
来。ま。こ。う。の。む。さ。知。く。つ。石。と。後。と。法。作
の。首。大。心。持。程。う。小。十。郎。を。見。越。し。て
指。眼。さ。る。月。の。む。さ。小。只。つ。あ。つ。て。舌。と。出
た。る。小。童。の。祝。妖。怪。草。紙。小。同。志。守。一。家。と。ま。は。居
え。越。入。り。あ。り。り。小。十。郎。初。く。と。お。わ。し。ひ



ぬく古格か化抱とのある男が半で、いふぬ奴く
 出たしあつとあざつひ。狐知とらち舟るふ
 妖怪も肩と越ても。其後夜あつるといふうの半も
 ぬくてぬぬ必定狸れつとあると一と思ひ翌日ハ
 ぬくこるぬつ。狐狸の穴とあほ一死とハきく
 うの先をーりる。かうして十日経つて。又あふ知の
 色へ行しふ。日以ん易く流る男の。何方行しわ
 不男出まひぬ小十郎が半に交するといふて我等
 ち半小のせよあつら。ま音何とせん。初なるに極そ
 ぬふらりつれむ。づらむの化よの小む。さうして

目小抱とせんといひ。うらちつて。わすむ福の
 半あり。わすむ。うらちの方小あつて。能は付来れと
 脊中小宗せ。その纏れ。さうして海へさつ。引
 出。さうして。我身志と結付。ちつとも
 うらちせ。ぬぬ。あつと。柳又。あつと。極
 我身来。引下。さうして。小小に結。りま。した
 友達といふ。うらち。いぬ。むむ。情。あつと。あつと
 ぬぬ。顔。に。因。柳。裏。提。来。う。青。和。葉。さうして
 焼。ち。さうして。忽。ち。形。狸。と。あつ。述。出。れ。さうして
 さん。く。小。打。り。る。福。小。後。小。お。殺。し。て。後。色。の。よ。の

ごもごまのたつしん、狸たつしんけふして答こたをうしてをはけ。妖怪はけ
ふりおれふしとあめこありり利

○封ついで乃生捕ひけさう

本草綱目五十一卷、然乃封けいのみと云う。岡東乃
云葉にわつむといふものあり。江戸やうも、後、葉川
女國の邊ありてわく。夏の以童わかくれあ俗あじ小遠こつ入く
あものあふ余あまはくしあふものいあしと利
今小年こねん毎ま小絶せつと。されを中ちゆうの半はんと云。や、中
在所しよちほありぬと。古こさ人じんは、決けつくし成せい半
と云。めくるふあり。其半そのはん小こまつす。此こゝ實じつ流りゅう女にょは

け事こともくしうなるにふあひ昔むかしはる人隣とろり村むらく
の。夜よもあまく門かど掃はきとあうらるにまなげ小隣せんにん家の
子こ八九はちゆう女にょ小こあるが。しりしむさくしん居いる。此こゝ文ぶん小
及および。葉あひし子ことよもあるうやせと。あすふ所
川童かいたらうあまし捕とらつてはる。人ひとおもんせんものごと
分別ぶんべつして。ちりくとあひいひこあるままれ同どう乃のせん
や。あましと梳とみぢらうらう。しりさあふ提ひきりあを
此こゝ童わかく位いふけひ。各おのあま者ものふらうらあんせいつら
は。是こゝ行ゆくや。我われ父ちち小こ告つぐ。後のち日ひにけしむいせんや
と。是こゝずらうして。おの通とほるを。あまれ人の目めと搦ひて

たる川童のつづみあをどびくふわあしれ念心平
きとあそののち―核た小根あしりぬさみ
もあしすす逐うせらる。俵や水虎八頭よあな
うあるあつあをそそもを。ちちち百倍なうさつ
中とそとあしり―信すあつとを初あの人く
もや集うてらんふ。件は核ハ川の取小のあつ
夢う纏ハすく小切く水面に浮こりり天晴
思しとああつりりしと。皆く言と振ひるあをそ

○大鳥梳人

但馬國湯涌村温泉ハ。元正天皇養老元年に

道智上人出石明神の神勅小依く。之杉の正
一千日曼陀羅儀を修しと祈出たあひ―う
云傳てていめくしり地れ温泉小浴する人
ねね―増鏡小。安加門院丹後のあまれ橋立
御免トふとあ。ねと―ゆし。そ終る但馬の
あのさこれいのでゆ先―小り―を給あ。為あれ
大納言。光成乃と位あや。所信はくまうつ―あ
らうとあり。其外ぞこれ貴人高位はあを
そと光い中―と民を治さひあし。地小
浴して病と治せ。別る近世京師乃良醫

後友氏は湯地知有まくと流廣めり種一ゆへ
 法國小中へ傳つて。湯地者甚多し。多ふは人
 園東らるるなり。け所小あり。湯治しあは種
 下此町より前ふ今りて四所明神を始め津居ふ
 縮地ふまよの勝宗をあら先日毎小ありに遊達
 一多ふあ舟俄小あり来りぬ。雨是れ初ま
 ありありしゆ。晴るをまへんと小社乃あり多に
 之入るるあり。向此田此時ふ。牛はくいる田まの
 口入るせん小牛と畜く。くくくゆる山原小腰け
 居く。たなまきもくせ休らる。まきい海に

大なる群れり。く。く。あち畜る牛乃脊中を
 蹴きく。頭と踏なり。く。其向ありを。其
 群あるあり。其大なるを。縮ふくけりともんす
 いうあるを。小やと目とをも。ぬるべん居るに
 牛は多あり。く。角とあり立。ち。く。く。く
 ねいりらる。牛。細。逃。拂。い。ん。と。や。こ。ひ。あ。ん。け。を
 あふ小石を扱て。く。く。あ。お。つ。け。ら。る。あ。と。く。の
 大なる群れり。て。牛。細。く。頭。れ。く。落。く。ほ。ふ。ま。い。一
 け男を扱て。虚元くあり。く。縮ふす。く。も
 見へけり。あり。あ。わ。や。と。元。と。ん。何。く。る。り

正体とありしは色しと。言殺小峰アとあるを
 けし声もや悲れん。嵐のをいふもしくばりしと
 原根うしくものがりる。抽阿とある。却て後
 半女は愛乃とある。うぐさせんといふ
 ありに眠アとある。半もそんえげとありしは
 細戸小。嵐殺し。作中。小。幾とありしは
 大さきまの素小。お嵐殺十匹有。うぐさ
 の終。うがま。うぐさ。うぐさ。うぐさ。うぐさ
 あり。たけ。妖怪とあり。我。古人のやうに

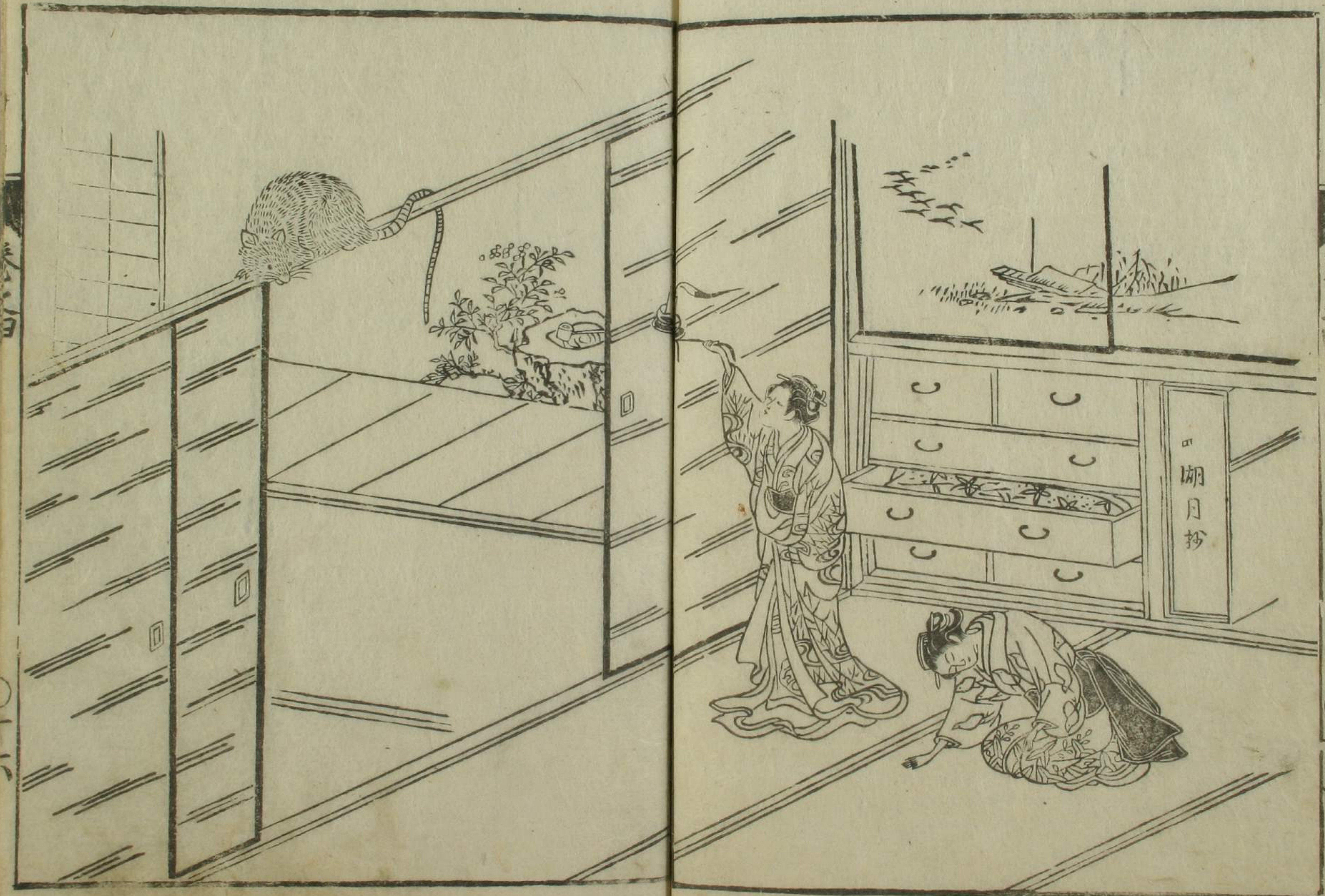
○鯉魚人を追

と徳の西市野川といふ。中。お。山。小川
 あり。ある。その農業の。お。細。彼。小。川。あ。く。
 秋と洗ひける。お。小。と。人。う。う。此。鯉。魚。来。り。と
 秋。ま。て。お。殺。し。刻。あ。け。く。お。小。川。を。お。打。寄
 て。食。し。も。る。を。後。は。お。目。を。終。く。又。け。川。小。お。り
 秋。と。洗。ひ。舟。も。る。小。川。お。打。寄。に。な。り。て。常。に。ハ
 膝。と。さ。ら。る。水。乃。を。る。お。と。お。し。も。は。種。小。な。り。ぬ
 け。う。く。さ。ひ。あ。う。く。農。具。け。と。洗。ひ。落。し
 舟。も。る。小。俄。小。大。お。張。来。り。白。浪。立。て。を。お。は。し
 け。り。一。色。な。れ。た。早。と。陸。け。け。う。く

見らるに大なる徳に川幅一ちわい子鑄を送ぎく
 遊あそび来り彼男を目け口はわくもきくるさぬ
 おそろーあんどもあろうたのわらわらなり
 け男身の色も強やうぢをともんて一て家持
 迎むか来りける思いたらえに救さき一徳の若
 あうけん子を救さけ一いつさゆりにげとよ
 よこちう。水を堰せきとめ你あなた入させ俄おあを落し
 けあはれ溺るあを冷ひやふるさ方便てんぽうもや。おそろー
 きくこあんけ。すぶ多徳人をとりのとけ
 古き人の流りさうー

○ 猫が山獄乃大蛇

伝た説せの之玉通うれに猫が獄の林森石を屋と云
 山中百姓は又人本こり小蛇あるに俄山中暗夜の
 ぐくわうく。何もあまふ流本たうりさうり
 出すと匂ーうりさへ。撫なむる影かげをさうら
 山とらう。流うぬうんきた。け二丈あまりも
 あるらんとん由大蛇の赤い頭と。とだけく遊あそ
 来りけれを息いきもはまあつて迎むかりるあふさ
 名の羽着れ魚うに。抽名の吹えらる程小蛇一
 あうらううんふいつをより来りけん大蛇



春之四

湖月抄

一ツ飛来り彼ありと既と既つもる者あり
 河一々もつ〜なる先居るふ彼赤坂の院
 志へてふ既ら積るや見〜とふるなりふ
 送らうぬ既するうらにと度ま〜既舞りて
 既あるあ。と〜めにあ〜る百姓とも氣味〜記
 事よあ〜とひ〜。それよるお給ある新〜
 あつ先〜と既後よ海〜ぬ守て志る。け既い。み
 ことのもの。牛と神乃。神とつ〜ひたなる〜！

○白太氣怪

越後國の山太氣小川。初のと沢山〜。田は〜たあり

申ふ。むつらう田たるを指〜。物な遠〜と云〜
 富る百姓あり。吳とを田指と云程小田地
 物多河〜る。け男ある。夜い〜〜けん。夜
 あり。日〜ら。薙〜して。御垂〜。指人のあ〜ま〜
 産をあらもるを〜。ま〜け。ま〜あ〜る。い
 云〜し。河〜も。志も。後幕乃指と〜。後〜利
 志〜つら。お〜せりま。志ば〜。腹運〜い。び
 指あるが。其後産の透る〜。あ〜く〜ら。出。迎〜り

くる。ふくけ。用かす。なま。程の半。ふもふ。か。れ。ど
 ち。色。う。に。お。か。し。ま。う。り。二。日。さ。う。く。神。衣。の。う。ら
 動。た。集。つ。其。お。う。り。又。る。刻。離。れ。る。書。添。
 行。し。に。帯。り。く。巻。し。も。る。八。十。八。と。い。ふ。白。火
 動。た。う。が。先。へ。を。さ。お。う。さ。う。り。く。し。を。吹。く
 衣。の。裾。と。く。く。り。止。り。る。動。た。集。つ。ん。付。く。微。小
 白。火。ハ。う。り。く。怪。と。知。る。や。と。云。傳。へ。り。り。や。一。粒
 半。も。有。る。と。ん。と。用。心。の。お。も。と。さ。う。す。め。し。る
 鎌。の。首。し。だ。だ。づ。づ。さ。く。さ。く。さ。く。し。の。厨。え。り。る。前。ま
 内。より。件。の。物。飛。出。く。田。持。り。咽。泣。小。答。ひ。付

り。ふ。を。鎌。を。切。ら。し。ひ。り。ふ。に。あ。や。ま。さ。う。ど
 猪。の。首。と。う。も。さ。う。し。ね。終。ぶ。咽。と。答。ひ。れ。る
 田。持。も。絶。入。し。り。る。と。お。出。の。者。も。し。う。り。怒
 太。の。吼。や。う。や。と。て。赤。く。お。け。侍。と。ん。て。赤
 髪。さ。い。お。お。内。お。お。さ。い。入。さ。あ。い。療。治。し。て。術
 平。愈。し。り。る。と。我。彼。猪。が。首。か。の。し。う。だ。や
 ち。る。と。る。ほ。お。ど。る。と。て。ち。ふ。く。め。つ。き。そ
 あ。く。け。お。し。く。ら。ハ。尻。を。去。に。の。き。た。と。て
 何。や。し。し。さ。し。し。の。白。火。を。八。十。八。と。う。り。付
 一。采。ら。し。の。お。の。ら。う。く。田。持。り。お。持。し

動たつがぶちるまじ。毎こそさるこびりし
たはしく主とあつて思とちす終ぬおの利

卷四終

怪談楸笈卷五

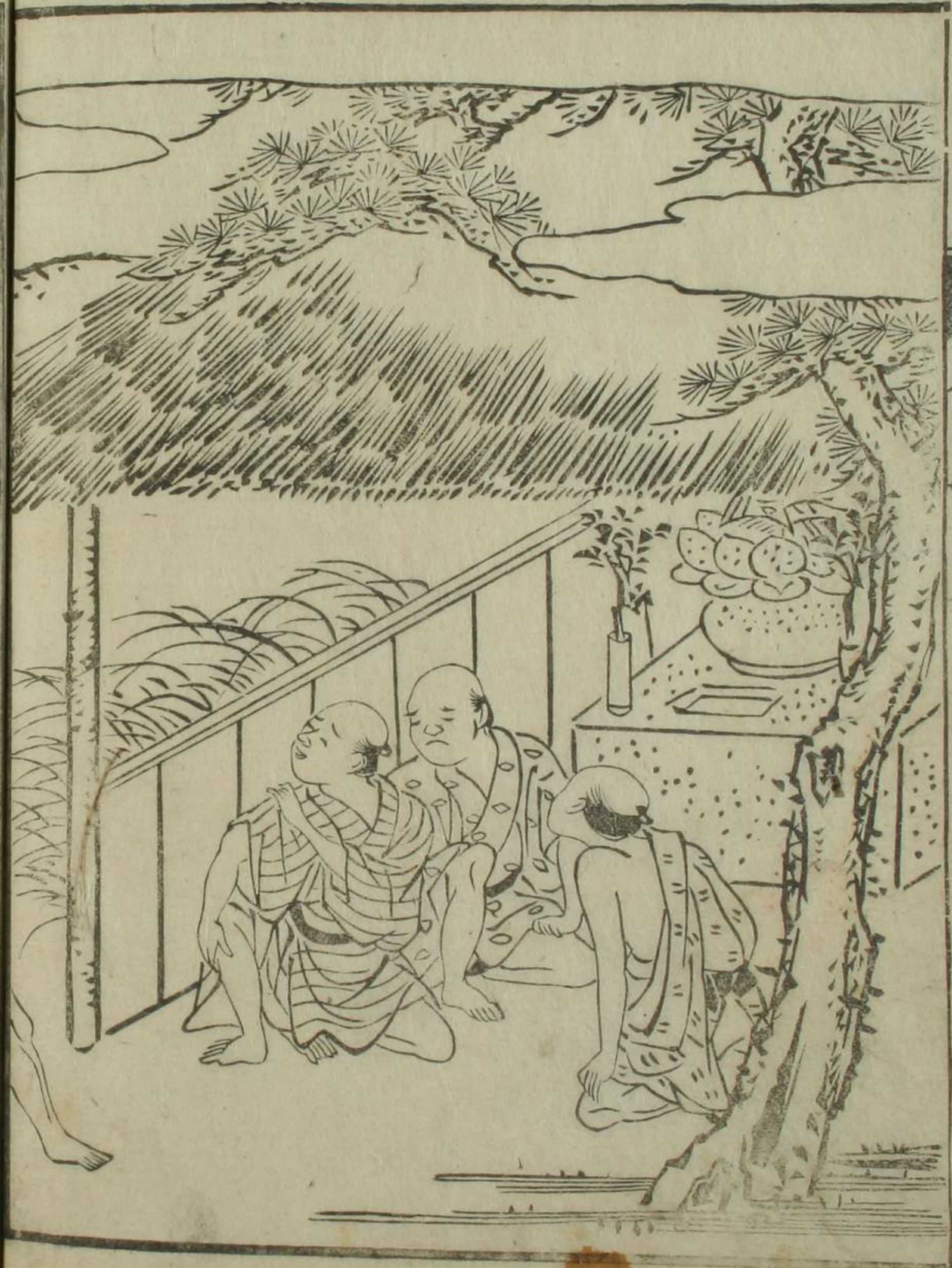
静観房好阿述

○羽良の大猪

あるがふは屯野中の草や深うん。けりふ人のまは乃
猪もんぬえうう。けち者りお己け。猪胞うさ者て
猪森と月があ。猪まをうくをさしゆる。おねの國小
隠もこのら獵人む。おの夜をう。初年う。田様とね
初年の派練百段百中の妙とゆらう。九けむ。おが
筒先小ゆる。款命と令し。てをるもの。うるまはし。
ゆるに一日大さ。牛うらも。坊う。る猪ふおをひぬ。
想どて猪ハ。そ有修う。甘く。せく。を竹時。ふきて

六極雜條の驛小入昇天浴地振若与赤の大術只
 飯條のちづらもむさうかへ順送西海あす
 夜一始ゆ凡けその利を凡夫の古少くさう流
 ちんぞうおれいすけくおとまうまめぞうを
 のねくげ狐狸のおおちるべー捕く付録の
 憂と除くびりとりめ満なむと相續一更しそ
 系者百十人むらうりえ合彼辻堂（越）を中ん
 せむせくる別のもの。材中ふ妙法する中村の
 めく作。まろ先ふす。辻堂の前とけつ度く
 二三交は身一りんを例の地蔵あつたれは先ふ

五あさぐる。もハ妖怪ごんちまことむすぞう
 けりやあゆと夜をえーうば大物とつと。かあま
 りる。ものりふ清くやく。辻堂の地蔵も。忽二作ふ
 ぬぬ。何まう。城の地蔵あつんと。こい居つらふ
 ねまごひふ夜をえー。妖怪はそれぞろ指さし
 くれバ。何来る石仏の抱くまことあつこと。又多作すの
 たび打倒一くれ。忽ち作をけり。ハ一辻堂を
 せしと。あつらうらあ。難く打殺しそり
 主後作身い。ハ乃が。ハ何のあ身一み
 ちうり。ハハハ



卷之五

五

いつとちあへ眠りてさうらね。若座のむらぬむすしーうり
 りもいハ。顔ゆり何けてらんるに。面色青ざあにるもの
 口いさぐり。眼まらつきが。若座の口とさーのそん。毒子
 とさうり答うんとする。と。大ち敷指若座のくらん
 うづくゆと赤く。け。妖怪と入トと乳をぬるり
 沈あゆさぬ。ゆらんく。な。ド。う。ハ。好。う。で。に。ち。ち。ん。ん。ん
 血暈あゆさぬ。ゆらんく。な。ド。う。ハ。好。う。で。に。ち。ち。ん。ん。ん
 束め出。て。汲。さ。り。海。へ。身。う。く。く。ん。好。ぶ。妖。怪。さ
 何地へのあん。根ハ。若座の口とさうり。うづくゆと赤く。け。妖怪と入トと乳をぬるり
 ちりり。わらる。ゆらあ。う。く。く。ん。好。ぶ。妖。怪。さ

なき。に。毒。女。が。半。の。氣。づ。り。ー。さ。ふ。ま。ん。の。指。の。う。づ。り
 踏蹴。て。若座の口とさうり。うづくゆと赤く。け。妖怪と入トと乳をぬるり
 何り。南を之室志那。あ。ゆ。り。の。前。記。半。の。指。の。う。づ。り
 流天。法。花。を。獲。の。若座の口とさうり。うづくゆと赤く。け。妖怪と入トと乳をぬるり
 あ。と。さ。う。り。答。う。ん。と。す。る。と。大。ち。敷。指。若。座。の。口。と。さ。ー。の。そ。ん。毒。子
 心。つ。ま。り。く。波。妖。怪。二。之。夜。若。座。入。ー。と。さ。う。り。う。づ。く。ゆ。と。赤。く。け。妖。怪。と。入。ト。と。乳。を。ぬ。る。り
 強。く。防。て。愛。し。あ。ゆ。り。の。前。記。半。の。指。の。う。づ。り
 形。ち。あ。ゆ。り。の。前。記。半。の。指。の。う。づ。り
 お。く。ど。い。何。り。の。前。記。半。の。指。の。う。づ。り
 馬。座。の。口。と。さ。う。り。の。前。記。半。の。指。の。う。づ。り

いふくくく責きひ。家傑の恨もあく声絶つるを
 終ふある年乃其夕々なきうに雷なり
 鳴るる老い一打くら。信のどくははのそのぎもを
 枝まで追止し湯屋いく俗しある知心。忽ち雷云
 海ひりく暗状れどくぬて。大雷一青むはたり
 程奇く晴るる。おのの男女湯屋に入らん。女は
 いづち由らん秘秘をあり。こ不思議せしまうと
 裂るるふ。ひもろくぬ後園乃大木の枝小蛇を
 裂くををををりりりるる。世に世にさるはるる
 日くら青い使のれ一者。こくくくくくくくくくく

呪りるやそ。是く可くゆ。この代の事にく。子孫もあま
 現なるまま。はるる。其まに所こ。知るま。この虚感と
 ぶん人ま。う。海事有や。お。中。溜田川の。千。後。の
 人ふ。為。回。ひ。く。ほ。の。戒。と。せ。ま。う。一。今。も。け。れ。う。と。ま。
 候。世。の。中。に。た。は。り。り。法。儀。系。う。れ。及。信。の。下。部。を
 の。責。一。ね。づ。う。通。る。お。な。呆。ハ。け。候。め。や。何。う。か。て。一
 あ。あ。う。一。こ。下。部。を。い。ら。う。給。ま。る。一

○江州乃勇者

備ある御もたる。おと。唐。橋。と。云。う。先。ら。の。む。じ。や
 ま。い。候。の。ま。に。強。盛。と。あ。る。男。何。う。も。る。も。本。名。ハ



右十葉 北尾重政画



ぐく飛あつてとらん半あり。英自形うりて
 其の笑し中代を先記流しと目見の
 たは國傳史記海軍の妙法して程子朱子と傳り
 うり先ぞと笑し僧老の碎ちて海軍と傳り
 一といふも只して彼小子の群只の醜も知るぬ
 海流よまは海流とつてすももん傳りしその中へ
 うもくつ傳りての悲果うぬ先あんとり酒小
 瀕ありまはの五分別老なり。是程おそり
 抱いし公は法度をも恐れず喧嘩は傳りて
 する屋つてはさう傳りてつてさるる元酒の人と

そこちの半は篇小志りてる。世こそこの妖怪より
 はるうにとゆく。大天乃魔王の所神酒とんぬく
 恐るしきさるる。奉公仕宿の人あんとり酒とね
 れれく。碎れあてまは患者れ志りや。海軍を
 ありてゆり。右般乃痛痛。千程の猶患皆け酒を
 起るる。あてまは福小。名はまこと。福福と
 けり。あてまは。流るる。あてまは。名はまこと。福福と
 中あり。されどをれは。と総て夷。流るる。乃百姓常
 酒とね。一日の中。に教林を吞りる。流るる。けり。男つと
 あり。海軍といふ。衣類のさるる。不。流るる。罪とて

むひとのあきく記あきく階かい一いちりりかたのる醫い師し余あま多た中ちゆうノ
侍しつる程ちゆうハ活くわく藤ふじとこひくもさる一いちれど日ひくふ
衰おとろ果はある耐た絢けん大だいかいつまひびく一いちの狗いぬ登のぼり
三さん寸すん餘あま裂さけき奥おく大だい小せうく湯ゆ茶ちやもげ疾はやく
漏もてえけび死し小せう死し一いちるまきたをうぬせの世よを
志しばくくく面めん白はくく一いち酒しゆ小せう觸ふま百年ひゃくねんれ命いのちと
あや海うみの岸きしもやちまをくく雀すずめ小せう好このもうの
りもこの世よ一いち酒しゆを好このまさるゆい新あたらし
あつげけま向むか燒や賭た話わの續つづ篇へんに志しる一いち世よ
世よ若わかのふとぬてくうく也や一いち酒しゆ小せう命いのちとやう

巻五 大尾

やどと世よ同どうの酒しゆを小せうにくゆまはとたぐのこい春はるを
下した小せう改か宗そうして雜ざ者しや小せう古こ打うち一いち流りゆうと草くさ唐たう小せう筆ひつと

明和四年 狂のや お志春

東郊書林

竹川藤兵衛版

卷之五

九

